

自己評価報告書

平成23年4月28日現在

機関番号：16401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20790390

研究課題名(和文) 医学部入学者選抜における態度評価項目・尺度の妥当性に関する研究

研究課題名(英文) Validation of Attitude-Evaluation in Admission Examination for Medical School

研究代表者

大塚 智子 (OTSUKA TOMOKO)

高知大学・教育研究部医療学系・助教

研究者番号：70335933

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：医学・薬学教育，入学者選抜

1. 研究計画の概要

コミュニケーション能力の低下など医学生
の「情意・技能面」に関する能力の低下は、
現在われわれが直面する問題の一つである。
こうした問題は、入学後の教育によっても改
善が難しく、したがって入学時での選別の必
要性が叫ばれている。本研究では、高知大学
医学部が行う態度・習慣領域評価型の入試
(AO入試)のデータをもとに、入学者の動
向を在学中、卒業後まで長期にわたり継続的
に追跡調査・解析し、態度評価の評価項目と
評価尺度の妥当性を検証するものである。

2. 研究の進捗状況

入学後、態度・習慣領域について学生間で相
互評価を行い(学生間ピア・レビュー)、AO
入試選抜時における態度評価との相関を調
べ、選抜時評価尺度の妥当性を検討した。
また、入試選抜ごとにピア・レビュースコア
を比較し、AO入試において態度・習慣領域
に優れた学生が選抜できているか検証した。
現在までに、平成15、16年度入学者の解析
が終了している。

(1) AO入試入学者における学生間ピア・
レビューと選抜時態度評価の相関

AO入試入学者における、学生間ピア・レ
ビューと選抜時態度評価の相関は、2年次よ
りも6年次スコアで正の相関が高く顕著とな
った。

(2) 入試選抜ごと(AO,教科型方式,問
題解決能力試験方式)のピア・レビュースコ
ア比較

平成15年度AO入試入学者については、2年
次ピア・レビュースコアが教科型方式群に比
較し有意に高いことが明らかとなった
($p<0.01$)。ピア・レビューのいくつかの項

目においては、問題解決能力試験方式群との
間にも有意差が認められている。

平成16年度入学者については、2年次ピア・
レビュースコアはAO入試入学者群が問題
解決能力試験方式群に比較し有意に高いこ
とが明らかとなった($p<0.05$)。ピア・レ
ビューのいくつかの項目においては、教科型方
式群との間にも有意差が認められている。
6年次ピア・レビュースコアはAO入試入
学者群と他の選抜群との間に有意差が認め
られにくい結果となっている。この原因とし
て、AO以外の選抜群においては、留年・退
学者が多く見られ、これらデータを6年次
解析において排除したことが影響していると
考えられる。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

学生間ピア・レビューは既に行っているもの
の、臨床研修先ピア・レビューの準備に際し
、当初予定していたよりもやや長い時間を要
し、当初予定したスケジュールよりも若干の
遅れが生じている。

4. 今後の研究の推進方策

臨床研修先でのピア・レビュー調査について
、現在、準備中である。本調査のデータを合
わせ解析・検討を進めたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

- ① 八木文雄、大塚智子、医学科入学者の入学後 6 年間に於ける各種動向の長期間継続的追跡調査による解析、日本医学教育学会入学者選抜委員会 第 24 回入学者選抜に関する討議会 2009 年 6 月 20 日、慶応義塾大学医学部（東京都）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：